

施策No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	高齢福祉課	主管課長名	
1-6	施策名	高齢者福祉の推進	関係課	健康推進課、社会福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	高齢者(65歳以上の市民)	①65歳以上の人口	見込値	人	見込値	13,557	13,607	13,660	13,711	13,605
実績値						13,730	13,822			
見込値			人	見込値						
					実績値					
②生いきサロン延べ参加者数(R4から新規)		見込値	人	見込値						
					実績値					
		見込値	人	見込値						
					実績値					
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
									①生きがいを感じている高齢者の割合	%
高齢者が安心して健康に暮らせている。	②生いきサロン延べ参加者数(R4から新規)	人	目標値	2,500	2,000	2,200	2,400	2,550		
				実績値	1,632	1,913				
	③相談に対して解決した割合	%	目標値	85.0	85.0	86.0	86.0	87.0		
				実績値	92.3	86.6				
	④認知症サポーター養成者数	人	目標値	350	360	360	360	360		
				実績値	547	596				
		目標値	人	目標値						
					実績値					
成果指標設定の考え方	社会貢献ができる環境を整え、健康寿命の延伸および生きがいにつなげる。日常生活の支援サービスを充実させるなど地域包括ケアシステム体制を推進し、増加する認知症患者への社会的理解を普及させるなど地域の支え合い作りを行う。									
成果指標の把握方法と算定式等	①生きがいを感じている高齢者の割合は、市民アンケートより求める。②生いきサロン延べ参加者数は、年度末の実績より求める。③相談に対して解決した割合④認知症サポーター養成者数は、年度末の実績より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①生きがいを感じている高齢者の割合は、前年度65.6%に対し、64.5%で1.1ポイント下回った。 ②生いきサロン延べ参加者数は、前年度1,632人に対し、1,913人で281人増加した。生いきサロンの会場を1か所増やしたことも参加者増に繋がった。 ③地域包括支援センターで相談を受け、問題が解決した割合は前年度92.3%に対し、86.6%で5.7ポイント下回った。これは、相談件数の増加や複雑な内容のため対応が長期化し、問題解決に至っていないケースがあることが要因の1つと考えられる。 ④認知症サポーター養成者数 前年度547人に対し596人と49人増加した。新規に市内2カ所の小学校で講座を開催できたことから、養成者数の増加に至った。 4つの成果指標のうち、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和してきたことにより、徐々に高齢者が外出しやすい状況になったことなどから2つの指標が前年度を上回ったが、残り2つの指標は前年度を下回った。これらのことから「成果がほとんど変わらない(横ばい状態)」を選択した。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①高齢者が生きがいを感じている割合は、目標値71.0%に対し実績値は64.5%で6.5ポイント下回った。 ②生いきサロン延べ参加者数については、目標値2,000人に対し、実績値1,913人と87人下回った。 ③相談に対して解決した割合は、目標値85.0%に対し、実績値86.6%と1.6ポイント上回った。 ④認知サポーター養成者数は、目標値360人に対し、実績値596人と大きく上回った。 以上のことから、実績比率は「目標値どおりの成果であった」を選択した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
貢献度評価の視点から令和5年度実績のあった事業は「高齢者あんしん通報システム事業」、「配食サービス事業」、「買物支援事業」であった。 「高齢者あんしん通報システム事業」では、154人が設置しており、正報16件、相談・連絡172件、合計188件の通報があり、在宅生活における緊急時の支援ができた。 「配食サービス事業」では、延べ132人の利用があり、調理が困難なひとり暮らし高齢者等を対象に、バランスの良い食事を提供するとともに安否確認を行った。 「買物支援事業」では、延べ7,309人の利用があった。令和5年11月には販売ルートの変更を実施し、買物が不便又は困難な高齢者等の支援につながった。	「高齢者あんしん通報システム事業」では、ひとり暮らし高齢者が安心して生活できるよう、急病や相談等の緊急時に備えた通報手段の確保していく。 「配食サービス事業」では、バランスの良い食事を提供するとともに安否確認を行うことで、高齢者の自立した生活を確保することになるため、利用者を増やしていく体制を整えていく。 「買物支援事業」では、売上金額や客数にばらつきがあるが、買物が不便又は困難な高齢者を支援できるよう、販売場所を含めた運営スケジュールについても検討しながら実施していく。